

「^{ほそかわけいちょうけ}細川京兆家の^{うちしゅう}内衆・^{こうざいし}香西氏の拠点で、後に^{はしばひでよし}羽柴秀吉の四国攻め時に改修された山城」

7 勝賀城跡【香川県高松市】

室町幕府の^{かんれい}管領・細川京兆家の内衆・香西氏の拠点。高松湾の西端に位置し、北麓には^{こうざいしゅう}香西浦を擁する。山頂中央部の堀切状遺構を境に、南西部は^{しゅかく}主郭及び全体を土塁で囲み、^{くちが}喰い違い^{こぐち}虎口など新しい構造を持ち、羽柴秀吉の四国攻め時等に改修されたことが分かる。



提供：高松市

*文化庁HP「文化審議会の答申（史跡名勝天然記念物の指定等）について」資料より抜粋

7 勝賀城跡【香川県高松市】

勝賀城跡は、高松市西端に所在し、瀬戸内海や高松平野を一望できる標高365mの勝賀山山頂に位置する中世山城である。北には港町の^{こうざいしゅう}香西浦があり、香西浦の後背地には勝賀城跡の山麓居館と伝わる^{さりょうじょうあと}佐料城跡があり、在庁官人出身の系譜を持つ香西氏の拠点であった。香西氏は、室町時代には^{かんれい}管領細川京兆家の^{うちしゅう}内衆として、上京した「^{かみこうざい}上香西」と^{さぬき}讃岐に残った「^{しもこうざい}下香西」に分かれ勢力を誇った。

勝賀城跡は、標高320m付近から頂上までの^{さぬきがんしつあんざんがん}讃岐岩質安山岩の分布範囲に城郭遺構が収まる。山頂部中央に堀切状の遺構と土塁を組み合わせた遺構があり、それを境に、北東部は尾根上に平坦部の^{くるわ}曲輪が連なる^{れんかく}連郭式の構造で、南西部は主郭及び全体に^お折れを伴った土塁が囲み、^{くちが}喰い違い^{こぐち}虎口や方形曲輪など16世紀後半に出現する新しい構造を持つ城郭遺構が見られる。主郭周囲では建物遺構や遺物がほとんど検出されず、恒常的な建物を建てない^{じんじろ}陣城的な性格が考えられ、時期について天正13年（1585）の^{はしばひでよし}羽柴秀吉による四国攻めの際に、改修されたと想定される。

中世香西氏の拠点であった山城が羽柴秀吉の四国攻めに際して改修され、四国統一をめぐる戦乱の舞台となり、また、改修過程が遺構として残る重要な城跡である。

*文化庁HP「文化審議会の答申（史跡名勝天然記念物の指定等）について」資料より抜粋